



7 研修第 13 号

(令和 7 年 10 月)

発行: 宇治市乳幼児教育・保育支援センター

アドレス: nyuyo.jicenter@city.uji.kyoto.jp



令和 7 年度 乳幼児教育・保育協働研修通信



テーマ
「公開保育」
(大谷幼稚園)

令和 7 年 9 月 17 日(水)

第 13 回研修会(教育・保育の質向上分野)を開催しました。

13 名の先生方と一緒に学び合いました。

幼稚園 8 名(講師 2 名・大谷幼稚園 3 名含む)・認定こども園 5 名

※ この研修通信は、園内の体制等でご参加いただけなかった皆さまにも研修会での学びの一端が伝わることを願って、研修会終了後の参加者による『振り返りシート』をもとにまとめたものです。

1. オリエンテーション

あいさつ



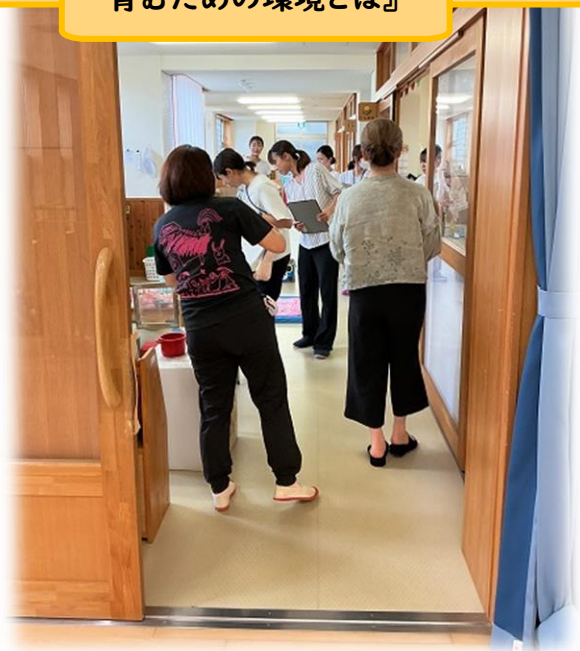
大谷幼稚園 園長 緒方 知子 先生



2. 公開保育開始

【テーマ】

『子どもの主体的な力を
育むための環境とは』





公開保育中の環境構成や保育者の関わりで、
心に残ったこと

(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

教師の 役割

- ・ 3歳児における教師の役割の大きさ(教師の関わりで遊びがもっと楽しくなる)
- ・ 子どもに対して止めるような声かけや否定する声かけを一つも聞かなかった。
- ・ 先生がおだやか。



環 境

- ・ 子どもたちの発言をすばやくキャッチして環境を変化させていた場面。子どもたちのイメージを共有して喜びを感じている姿が見られた。
- ・ 園全体を使って自由に遊ぶ環境
- ・ 自由に好きな玩具を選ぶことができる環境構成
- ・ 好きな遊びをいつでも選べるように子どもの手の届く所に様々なおもちゃを置かれていた。



やりたい

いきいき

- ・ 子どもたちがどこに行っても近くにいる職員さんと“やりたい”ができる。
- ・ 指示が少なく、子どもたちが自ら活動に入り、いきいきしていた。



3. グループ協議



グループ協議中に仲間の発言で、心に残ったこと
(参加できなかった仲間に知らせたいこと)

A グループ コーディネーター

みのり幼稚園 園長 長澤 宗一 先生



こどもが「**やってみ
たい**」「**やりたい**」
と思える関わりを大
切にしていること



遊びの環境・内容
はそれぞれ違って
いた。また、活動
も「遊び」である
ことを意識して**楽
しんで**行うことが
大切

保育者も環境構成
の一つである。

「〇〇の練習」とい
わず、「〇〇**遊び**」
と呼んでいること

B グループ コーディネーター

こざくら幼稚園 園長 松井 明恵 先生



様々なおもちゃが
あり、**子どもがやり
たい遊び**が出来て
いて、その時に関わ
る保育者の言葉掛
けがとても素敵だと
いうこと



時間にゆとりがあ
ることで、**心に余裕**
を持って保育者も
関わっていた。

子どもの**主体的な保育**
がとても大切にされ
ている保育内容であ
った。

やりたいを実現できる
職員の**心の余裕**



“片付け”を大切にしていたが、**友達の作った物を見て遊びが広がる**こともあるため、伝えすぎて片付け中心にならないようにする。

環境と教師の
関わり

決まりを作り過ぎず、**子どものやりたいを尊重**したい。

子どもの言葉一つひとつに耳を傾け、子どもとのコミュニケーションを楽しみ、否定的な声かけをせず、**子どもがやりたいと思える声かけ**を工夫する。

園で
実践したいこと



子どもが選べる環境を作れるようにしていきたい。

リズム遊び(ダンス)の前に線に並ぶゲームをされていて、自分も取り入れてみたいと思った。

時間にゆとりを持った関わり。
一人ひとりを大切に。

指示ばかり、「〇〇しなさい」「やめなさい」等ではなく、自分自身も心**おだやかに**子どもと向き合っていきたい。

